

令和6年度 学校研究

学校教育目標

「自律・協働・創造の意思をもって主体的に生きる生徒の育成」

学校研究主題

「主体的な学習者が育つ授業を目指して」

～自己決定の累積と PBS 理論を通して～

1,研究主題設定の理由

学校教育目標の「主体的に生きる生徒の育成」を「主体的な学習者」と表現し、目指す学校像である「生徒が育つ学校」を「学習者が育つ授業」と表現した。あえて「授業を目指して」と表現することで「授業改革」が学校研究の核であること示し、令和の日本型学校教育の具現化を目指す。

ここで「主体性」を育むには、「自己肯定感・自己有用感・自己効力感の醸成」が重要と考えた。そこで『自己決定を積み重ねること』と『PBS（ポジティブ行動支援）』の両輪での授業改革に挑戦したい。

2,研究の重点項目

自己決定の累積（自己決定できる機会の増設）

- ・一斉に教える時間の削減と指示・命令の削減の工夫を行う。
→生徒がねらいに応じて、自己選択して学習する手立てを用意する。

PBS 理論の活用（生徒の学びを見取る）

- ・授業内での「学びの見取り」や「評価」をいかした授業づくり
→生徒の見取り、生徒の学ぶ過程で PBS を行う。生徒の成果物など評価で PBS を行う。

単元構想の充実（生徒が学習の見通しを持つ）

- ・一時間後、単元終了後、学期後、1年後の「めざす姿」を明確に持つ。
→単元のゴールモデルを提示する。学習を通して何ができて何がわかればよいのか示す